

大雪山の素顔

すばらしい変化のとき

春という季節のちょうど真ん中の4月。冬から夏に急速に変わる様子がありありとうかがえます。何かと荒々しいことの多いヤマですから、吹雪とピーカン照りを繰り返し、さながらノコギリの歯のように変わりゆくさまがたいへん面白いとき、と言えるでしょう。

▶4月初めの姿見石室(標高1665m)



4月の頭、姿見池のほとりに立つ石室に入るには、まず半ば雪に埋もれた避難小屋の入り口を探すことから始めなければなりません。好天の日にスキーコースを降りてくると、中間点の積雪は3mでした。陽だまりでスキーに付着した水が日陰で瞬時に凍って板をつかみ、ザラメの時期はまだまだ先だ、と思い知らされます。



Nature Column (ネーチャーコラム)
自然ガイドなどで活躍する人たちのリレーしています。

▶4月中旬のスキーコース中間雪尺(積雪3m)



そんなころ、忠別川河畔近くの冬眠穴を出たヒグマが道路脇やロープウェイの下を登っていく姿や足跡が目撃されるようになります。

出会いあり別れありの季節、旭岳ビジターセンターも有力なメンバーが実力をさらに活かすべく巣立ちます。職場は別れても、この恵まれた自然を愛する者同士、協力し合って訪れるひとを楽しませていきたいと思います。

旭岳ビジターセンター 菊地 基

雪が次第に締まっていくと、スノーシューも使いやすくなり、クロカンスキーを使える場所も広がります。場合によっては長靴で歩ける場所も増え、雪融けの早い水辺では黄色の鮮やかなリュウキンカが開き始めるところがあるでしょう。



▶4月下旬の熊の足跡



ステイケーション

東川町国際交流員(CIR)

ソエ・アスコリ

前回は、オーロラを見に行く話をしました。またすぐに海外旅行できるよくなるというのですが、それまでは他の楽しみが必要になってきました。

最近新しい言葉が現れました。「stay」(留まる)と「vacation」(休暇)を組み合わせたもの、「staycation」(ステイケーション)という言葉です。意味は、遠出をせず、なるべく家の近くで過ごす休暇のことを指します。

現代のメディアでこの言葉が最初に使われたのは、カナダの「コーナーガス」という番組でした。「ステイケーション」という言葉は2007年頃から人気が高まり、2009年にピークを迎えました。当時は不景気だったため、家に留まり浪費しないで過ごすという考えで広く使われていました。現在は再び流行しています

が、それは、感染症にかかったり、感染を広げたりする可能性を避けるため、自宅から遠くに旅行することは好



まずくはないという理由からのようです。ステイケーションの時は何をするかと言うと、新しい趣味を作ったり、SPAに行ったり、本を読んだり、キャンプに行ったり(庭でもOK!)、地元プールに行ったり、ボードゲームをしたり、映画を観に行ったりと、なんでも好きなことをすることが出来ます。先ほど述べたように、ステイケーションはパンデミックが始まって以来、ますます人気が出てきています。カナダのオンタリオ州政府は、2021年を「ステイケーションの年」と宣言し、休みを取っても自宅に近い場所でも過ごすことを奨励するための特別予算を計上しています。

東川周辺でもできることはたくさんあります。温泉に行ったり、動物園に行ったり、フルーツ狩りをしたり、スキーをしたり、ハイキングをしたり、カフェやレストランに行ったりするのもいいかもしれません。

パンデミックのせいで旅行を楽しむことができなくても、地元の美しい環境を楽しむことができます。感染症の拡大を防ぐだけでなく、環境のためにもなりますし、費用も安く済みます。ワインウイン(WinWin)ですね。お体に気をつけて、楽しんでください。